

生産性向上の方策

Q. 受注をこなすのが精一杯で、生産性向上のための方策がわからない。

要旨 まず、方策を検討する時間を確保しましょう。このままでは何も変わりません。

生産性の方策は、まずムダの削減から始め、その後投資により生産能力を向上するという順番で行います。投資は全体バランスを崩さないように行います。

解説

1. 方策の検討

あらゆるタスクは下図の時間管理マトリックスでまとめられます。今回の生産性向上のための方策検討は②「将来に向けてやっておかなければいけないこと」に該当します。領域①を減らすことはできませんが、領域②を行っておくことで将来の領域①を減らすことはできます。領域③、④に該当することに使っている時間を生産性向上のための方策検討に充てることがベストです。

2. 方策の実行

生産性向上に向けた方策として、まず行うべきはムダの削減です。そして見える化によりさらなるムダの削減を図ります。前後工程と生産能力にアンバランスがあると、せっかくムダを削減しても手待ちになってしまうだけなので業務の平準化も行います。投資については全体バランスを保ちながら実行します。

	緊急度（高い）	緊急度（低い）
重要度（高い）	<p>①重要度（高）、緊急度（高）</p> <p>やらないと大きな損失が生じる</p>	<p>②重要度（高）、緊急度（低）</p> <p>将来に向けてやっておかなければいけないこと</p>
重要度（低い）	<p>③重要度（低）、緊急度（高）</p> <p>無意味なのにやらなければいけないこと</p>	<p>④重要度（低）、緊急度（低）</p> <p>無意味でかつ急いでいないこと</p>

ムダの削減から始め、投資により 生産能力を向上させる

＜ご提案のポイント＞

- ・ムダの削減をします
- ・業務の見える化をします
- ・業務の平準化を図ります
- ・人材、設備の能力アップを実施します
- ・自動化を進めます。

1. 生産性向上への取組みに向けた検討時間の確保

受注をこなすのが精一杯という中でも、生産性向上への方策検討の時間を作る必要があります。

2. 生産性向上に向けた方策

①ムダの削減

生産性向上に向け、まずやるべきことはムダの削減です。ムダには、(イ)加工のムダ、(ロ)在庫のムダ、(ハ)造りすぎのムダ、(ニ)手待ちのムダ、(ホ)動作のムダ、(ヘ)運搬のムダ、(ト)不良・手直しのムダがあります。これらの観点でムダの削減を図り、生産性を向上します。

②業務の見える化、可視化

業務を見える化することで、進捗、余力が見えるようになります。

製造業でしたら、差立、作業指示、作業標準、勤怠表、スキルマップなどのツールで業務の可視化が進みます。

また、業務フローを描いてみると、標準化されていないことやムダが見えてくる場合があります。

③平準化

平準化とは、「作業負荷を平均化させ、かつ前工程から引き取る部品の種類と量が平均化されるように生産する行為」です。(JIS Z 8141-1213)

例えば、自工程で毎時 100 個の生産能力があっても、前工程が毎時 50 個の生産能力しかなければ、自工程は 50 個分の手待ちが発生します。また、逆に前工程の生産能力の方が大きければ、自工程の前には仕掛品が在庫されていきます。

作業の平準化により各工程の生産能力のバランスを整え、手待ちや在庫を削減し、生産能力を向上します。

④能力アップ

個人の技能向上や機械への投資により作業スピードをあげます。個人の技能については研修の受講などの OFF-JT の活用もあります。